右馬允だより

緑が美しい季節となりました。バイカイテデが咲きはじめ緑の中に白いお花が浮かび上がって夢のようです。村中の田んぼも全て苗が植わって清々しい景色が拡がります。"今年も全てが始まった"そんな感じです。

冬の間は する事もなく(本当はあるのでしょうけど)死んだようになっている私たちですが今となってはしなければならない事だらけで毎日あせりながらやるのですが追いつかず うまくいかないものです。男の子たちは鮎釣りに出かける場所を選んだり仕掛けを作ったり…その間に草刈りをしたり畑を作ったりと楽しそうにやっています。父美は ヨーガのコーチという立場上毎朝必ず瞑想の時間をとり彼女なりにとり組んでいます。「いつでも送っていいよ」の野菜でお世話になっている農家さんのお手伝い(今は田植えの終た田んぼの稲苗の補植)、自分の畑と田の作業、クリア問題、山登り、植生調査、まだ若い人ならではの芸当を展開しています。かつて自分もそうだったなんて信じられないような変身振りに人生の悲哀を感じる今日この頃でございます。

友子母の五月

大正8年生れの義母は只今95才、私が老いを感ずると同じように母も以前とはちょっと違って来たなと思いながら生活していると思います。元気で美しく足腰もしっかりしていて70代80代ずーっと来ましたが最近になってようやく外見が年寄りっぽくなってちょっと柔らかく優しく上品な老人の完成に至りました。名古屋と豊橋に住む二人の姉たちがそんな母のお相手方々大磯の自然に触れようと来てくれます。5月3日4日5日と名古屋のえつ姉右馬允が忙がしい時で料理の上手な姉は母の食事の用意からおしゃべりの相手、野に出てわらび取りご夫婦で孝行の限りを尽してくれます。母はもううれしくてうれしくて姉にまとわりっぱなしです。そのお礼にお風呂焚きをして感謝の気持ちを伝える母です。丁度緑の爽やかなこの頃に決って大磯歩きを楽しまれる次女のあつ姉夫婦。この時も母はうれしそうにあつ姉にピタリつきっきりで3日間過ごします。夕方には知らぬ間にお風呂の煙突から煙りが上がっています。おしゃべりが大好きな母はこのお二人が来てくれると実に生き生きして幸福そうです。母は娘の寄り所です姉たちが来てくれる時私たちは実に素晴らしい母娘の交流を見せてもらっております。二人の姉に感謝です。